

韓国情報誌 第4号発行



編集を担当する韓国語学研究室の学生ら

県大生 結婚事情や環境問題紹介

県立大(山口市)で韓国語を学ぶ学生が、韓国の結婚事情や環境問題などを紹介した情報誌「県大生の韓国ジャーナル」第4号を発行した。硬軟織り交ぜた話題を若者の視点で取り上げており、学生らは「手にとって韓国を知るきっかけにして」と呼びかけている。

A4判4ページのカラー刷り。「メディアで伝わりにくい韓国の一面を知らせたい」と昨春創刊し、春と秋に2500部を発行してい

る。国際文化学部の韓国語学研究室に所属する3、4年生7、8人が編集スタッフで、授業やサークル活動の合間を縫って、編集会議や取材、記事作成をこなしている。

10月発行の最新号では、環境に配慮して、燃料に天然ガス利用を呼びかけて走るソウルのバスを取り上げた。4年生の畑野友里恵さん(22)は「温暖化対策は日本より進んでいるかも」と感想とともに紹介。プライ

ダル業界に就職予定の垣下友希さん(22)は大勢の人が参加する韓国の結婚式を写真付きで掲載した。

これまでに韓国総領事へのインタビューやチマチョゴリに関するクイズ、日韓双方の留学生紹介なども載せてきた。文部科学省の地域活性化事業の支援を受けて発行しており、同大近くのJR宮野駅や県立図書館、

山口情報芸術センターなどで無料配布している。垣下さんは「学生生活で卒論以外に形になるものを残せて良かった」と満足。ジャーナルは今後も年2回発行予定で、同研究室の林炫准教授は「大学で学んだ情報を地域に発信できる貴重な媒体。多くの人に読んでもらいたい」と話している。